

都市地域計画(City and Regional Planning)

担当教員名	大塚 毅彦、松原 永季	
学科・専攻、科目詳細	建築学科 5年 通年 2単位 講義	
学科のカリキュラム表	専門科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	専門工学科目 専門応用系	
学習・教育目標	共生システム工学	A-1(25%) F-1(25%) H-1(50%)
	JABEE基準1(1)	(a)(d)(e)
科目の概要	本講義では、都市計画・建築学の立場から、現代都市の抱える諸問題を、経済・社会システムや生活様式の変化と関連づけながら、多面的に理解するとともに、明治以降現在までのわが国の都市計画の歴史的変遷と現代的課題について学ぶ。前期は、近代都市計画の歴史や現代都市計画の基礎手法の講義を行なう予定である。 後期では、わが国の都市空間が抱える課題について、福祉のまちづくり、防災、少子高齢問題などの講義、ワークショップ、見学会を行う。	
テキスト(参考文献)	参考資料は、適宜配布する。 参考文献： 佐藤圭二 杉野尚夫共著、「新 都市計画総論」	
履修上の注意	都市地域計画の基本的な考え方、現代都市が抱える諸課題の背景を理解すること。毎回必ず出席し、不明な点はその場で質問するか、Q and Aカードに記入すること。	
科目の達成目標	授業はじめに2名ずつ、都市計画に関する記事について発表を行う。都市地域計画を受講して以下の能力を習得することを目的とする。 1)都市地域計画を技術、文化、社会、法律、経済などの多様な文脈と歴史やライフサイクルなどの時間的な展開の中で理解し都市地域計画手法で説明できる能力(学習・教育目標(H-1)) 2)現代の都市空間が抱える諸課題について、ワークショップや見学会を通じて柔軟かつ計画論的・実践的な提案ができる能力(学習・教育目標(F-1)) 3) 自然・人間・環境との共生に配慮できる能力(学習・教育目標A-1)	
自己学習	目標を達成するためには授業以外で必ず予習を行い授業に備えること。授業後の復習も怠らないこと。また、課題や小テストに備えて、与えられたテーマに取り組むこと。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/3以上の欠課
	達成目標(1)-4回の定期試験で現代の都市計画手法・技術について説明できる能力を評価する。(50%) 達成目標(2)-レポート及びワークショップでの発表・質疑により、提案内容が一般的感覚で受け入れられる内容であること、適確に表現され理解しやすいことを評価する(25%) 達成目標(3)-レポートにより共生に配慮した関連分野の計画技術の理解度を評価する。共生へ配慮した意見が明記されていること(25%) 成績は以上3点について評価し、総合評価として60%以上達成したものを合格とする。 (希望者のみ)自由研究(ボランティア体験、新聞雑誌記事切抜等)	
連絡先	otsuka@akashi.ac.jp	

授業の計画・内容	
第1週	年間授業計画の説明、都市地域計画概論 授業の進め方および評価についての説明をおこなったうえで、概論をおこなう。Ⅱ レポートの書き方についての講義も行なう。
第2週	欧米の都市計画思潮 19世紀から第2次世界大戦後までの西欧先進諸国の都市計画の展開について概説する。
第3週	近代日本の都市計画制度の発展 明治維新から大正時代(都市計画胎動期)までのわが国の都市計画の展開について概説する。高度経済 成長期から現在までのわが国の都市計画の展開について概説する。
第4週	少子・高齢・人口減少下でのまちづくり(1) 我が国の少子高齢・人口減少社会下での都市計画・まちづくりの課題について概説する。
第5週	少子・高齢・人口減少下でのまちづくり(2) 我が国の少子高齢・人口減少社会下での都市計画マスタープラン、住宅政策のあり方について概説す る。
第6週	都市構造の再編とオールドタウン問題を考える(1) 大規模公的開発団地である明舞団地の再生について、現地見学会を行う。
第7週	都市構造の再編とオールドタウン問題を考える(2) 昭和40年代の住宅地(明石市魚住町錦が丘)を対象に、居住地の課題(空き家問題等)地域住民への ヒアリング等によるフィールドワークを地域住民と協働してグループにより行う。
第8週	中間試験
第9週	都市構造の再編とオールドタウン問題を考える(3) 住宅地(明石市魚住町錦が丘)のフィールドワークによる発表会をグループごとに行う。
第10週	市街地再開発計画の現状と課題(1) 明石駅前地区再開発を対象に現地フィールドワークを行い、現状の把握と課題を考える。
第11週	市街地再開発計画の現状と課題(2) 明石駅前地区再開発を対象に現地フィールドワークを行い、現状の把握と課題を考える。
第12週	都市施設の計画(1) わが国の土地利用計画制度の目的と方法及び枠組みについて、説明を行う。都市計画区域における市 街化区域と市街化調整区域の区域区分制度について説明を行う。する。
第13週	都市施設の計画(1) 都市の基礎的施設である「都市施設」のうち、都市の道路・交通計画、公園緑地制度について、説明 をおこなう
第14週	住環境整備事業、地区計画について 再開発制度の代表的な制度(都市開発法による事業の仕組み、住環境整備)の仕組みと課 題について説明をおこなう。
第15週	現代都市の新しい潮流(エリアマネージメント、スマートシティ等) 現代都市での新しい潮流(エリアマネージメント、スマートシティ等)について概説する。
期末試験	

授業の計画・内容	
第16週	超高齢社会に向けた福祉のまちづくり わが国の高齢者・障害者のおかれている住宅・住環境の原状と課題について説明を行う。
第17週	福祉のまちづくりの現状と課題 わが国の福祉のまちづくり条例、ハートビル法、交通バリアフリー法からバリアフリー新法制度の概説を行う。
第18週	バリアフリーからユニバーサルデザイン・インクルーシブデザインへのまちづくり バリアフリーからユニバーサルデザインそして英国のインクルーシブデザインによるまちづくりについて、具体的事例にもとづいて説明を行う。
第19週	現地研修・見学会（兵庫県立福祉のまちづくり研究所） 福祉用具、バリアフリー住宅などの見学を行う
第20週	過疎地域の村おこし、街並み保全を考える（１） 書籍「里山資本主義」（藻谷著）をもとに、リードフォーアクション（読書会形式）によって、地域振興のあり方について議論する。
第21週	西粟倉村（森の学校）と大原町の街並み保全地区見学会（１） 岡山県西粟倉村の森林を生かした地域振興（森の学校）
第22週	西粟倉村（森の学校）と大原町の街並み保全地区見学会（２） 大原町の街並み保全地区の現地見学会を行う。
第23週	震災復興と減災まちづくり（１） 我が国の震災復興のまちづくりと減災のまちづくりの概要について説明する
第24週	震災復興と減災まちづくり（２） 地元自治会との協働により、明石市魚住町の錦浦校区の各自自治会の避難経路の検証や避難のありか方について、現地調査を行う。
第25週	都市景観とまちづくり マンション建設問題と景観保全について(三重県松坂市殿町の事例)
第26週	ワークショップ 環境共生時代のまちづくり 環境・ゴミ問題を題材にして、地域における合意形成および意見集約に関するワークショップを行う。
第27週	神戸市長田区における都市再開発、住環境整備事業について (非常勤講師)松原先生の集中講義(全3回うち1つは見学会) 密集市街地の現状と課題について講義を行う
第28週	現地見学会・長田地区再開発・密集市街地（駒ヶ林地区）の見学会 神戸市長田区での現地見学会をおこなう。
第29週	密集市街地の再生計画3 密集市街地の再生について、グループごとの振り返りと議論をおこなう。
第30週	人口減少下におけるこれからのまちづくりの課題と展望 広島県沼隈のまちづくりなどの先進まちづくりを参考に、住民の参画と協働のまちづくりの現状と課題について説明する
期末試験	